

みんなで話そうー看護の出前授業 実施報告

🍃 実施校：愛媛県立今治西高等学校

🍃 開催日時：令和8年7月15日（水）11:35～12:20



生徒の皆さまのご感想

- ・「患者さんが黙っているのは、何も思っていないわけではない。」という言葉がとて心に残りました。
- ・患者さんと深くかかわる職業なので、うれしいことだけでなく悲しいこともあると分かりました。
- ・人は、表の表情や話方だけではわからず、些細なことにも気づいて不安を少しでも緩和する役目があることがわかりました。「話を聞く看護師になろう」という決意が心に残りました。
- ・「信頼関係」という言葉が印象に残りました。看護師と患者とはいえ、人と人ですから、弱みを見せるのは気が引ける患者さんも多いはず。そういったことを体験談から学ばせていただきました。心を開いてもらえるように思いやりを持って看護がしたいです。
- ・実際に現場で働く人の声を聴いてみて、実感がわいてきました。人の世話をするという事は、自分のことだけで精一杯になってしまうと成し遂げることは難しいし、日々自分の生活をきちんとしなければ成立させることはできないと感じました。
- ・話を聞いて、もらい泣きしてしまいそうだったくらい話に入り込んで聞くことができました。また、自分も同じような経験がしたいと強く思い、看護についてより興味を持てました。



学校担当者様のご感想



3年生の医療系、看護系の進路を希望している生徒にとって、講師松井様のお話は、具体的で、将来看護師としての心構えをしっかりと持つ機会になったと考えます。特に、患者との言葉だけでなく表情などの非言語コミュニケーションが重要であるという点は、生徒の心に響いたようです。

講師の松井様にはご多用の中、生徒たちのために出前授業をご準備いただき感謝申し上げます。

また、対話を通して講義を実施したい、どんな些細な質問でも構わないので尋ねてかまわないと生徒に事前連絡してほしいと、担当に申し出てくださったことで、生徒にとって「看護にかかわる」ことを、自分事として考え直す好機になりました。ありがとうございました。



講師のご感想（愛媛県立今治病院 松井 千恵 先生）



高校生に看護の魅力を伝えるために、看護実践において嬉しかったこと（患者・家族との関りからの喜び・楽しさ・学びからのやりがい等）を主に話をしました。

①看護学生の時に受け持った患者さんとの関わり（感謝されたことの嬉しさ）

②看護師1年目に受け持った患者さんとの関わり（本当の思いを知ることの大切さ）

③認知症がある患者さんとの関わり（患者さんを知ることの大切さ）

最後に、自身の現在の看護について説明を行い、専門性のある多様な看護があることを伝えました。終了時に、質疑応答を行い、以下の質問があり返答しました。

- ・「給与はいくらもらっているか」
- ・「一般病棟での仕事で辛かったこと」
- ・「今後看護はどう変わればいいと思うか」
- ・「嘔吐する方を見ることができないが看護師になることはできるか」
- ・「仕事をしながら専門の資格をとることができるか」